

令和5年度「犬山市の子どもたち」

令和5年4月18日に「全国学力・学習状況調査」が行われました。

対象学年は、本年度の小学校6年生と中学校3年生です。調査対象は、小学校6年生の国語・算数、中学校3年生の国語・数学・英語の3教科です。今年度は新たに英語に関して「話すこと」（スピーキング）があり、タブレット端末を使用して出題から解答までオンラインで行われました。また、質問紙による学習状況や生活の様子についても調査が行われました。この調査から見えてきた、犬山の子どもたちの状況をお知らせします。各学校においては、それぞれ自校で調査結果を分析し、個人票と合わせて保護者にお知らせしています。

1 犬山市全体の正答率を全国平均と比べて

学年	国語	算数
小学校6年生	ほぼ全国並み	やや高い



学年	国語	数学	英語	英語（話すこと）
中学校3年生	ほぼ全国並み	ずいぶん高い	ずいぶん高い	やや高い

2 学習指導要領の領域等

学年	国語	算数・数学	英語
小6年	・言葉の特徴や使い方に関する事項 ・情報の扱い方に関する事項 ・我が国の言語文化に関する事項 ・話すこと・聞くこと ・書くこと ・読むこと	・数と計算 ・図形 ・測定 ・変化と関係 ・データの活用	
中3年	・言葉の特徴や使い方に関する事項 ・情報の扱い方に関する事項 ・我が国の言語文化に関する事項 ・話すこと・聞くこと ・書くこと ・読むこと	・数と式 ・図形 ・関数 ・データの活用	・聞くこと ・読むこと ・話すこと（やり取り） ・話すこと（発表） ・書くこと

3 学習に関する傾向

小学校6年生

国語は、漢字の活用において、全国平均よりも下回っていました。学年別漢字配当表に示されている漢字を、文の中で正しく使えるように、ただ覚えるだけでなく、意味も併せて理解していくことが大切です。また、「話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと」においては全国平均を上回っていますが、「書くこと」については正答率が低く、犬山の子どもたちの苦手意識が感じられます。自分の考えを図表やグラフを用いて伝えるように書き表したり、自分の考えをまとめて書いたりする経験を増やし、思考を文章にして表現する力を身に付けていく必要があります。

算数は、図形以外は全国平均を上回る結果となっています。特に「数と計算」の領域では、小数の加法・乗法の計算、加法と乗法が混在した整数の計算がよくできていました。「図形」の領域では、正三角形の性質や面積と底辺との関係の説明ができていませんでした。この問題は、自分で面積の大小を判断し、理由を言葉や数で説明するという思考・判断・表現の評価観点にも大きく関わりがあります。知識・技能の活用だけでなく、それを応用し課題解決する力を今後身に付けていく必要があります。

中学校3年生

国語は、すべての領域で全国平均とほぼ同じ結果となっています。文脈に対して正しい漢字を書いたり、心情を表す語句の意味を正しく理解したりする力を付けていく必要があります。優れているところは、「我が国の言語文化に関する」領域で、歴史的仮名遣いの活用や古典の原文と現代文を対応させて内容を捉えることがよくできていました。

数学は、すべての領域において全国平均をずいぶん上回る結果となっています。特に、計算したりデータを活用したりすること、問題解決の過程や結果から筋道を立てて考え、結論が成り立つ理由を説明することがよくできていました。「図形」の領域

については、全国・犬山ともに正答率が低い結果が見られました。合同な三角形をずらし重ねた複雑な図形の中から、同位角や錯角の関係を用いて平行を証明するといった論理的思考力を身に付けていく必要があります。

英語は、すべての領域で全国平均を上回る結果となっています。特に情報の正確な聞き取りがよくできており、知識及び技能が優れています。今年度より始まった「話すこと」では、相手の英語を聞き、それに対して答える形式でした。相手の問いに対して必要な情報を解答に組み込んで伝える、未来表現や疑問文の形式を活用して答える、相手に自分の考えを提案し、その理由を説明するなど、5問だけですが難しい問題が多く見られました。全国的に正答率は非常に低い結果になりました。犬山の子どもたちの結果を見ると、相手の問いに対して、情報量が足りない解答であったり、文法等に誤りがあったり、無回答であったりする様子が見られました。今後、知識・技能として獲得したものを、実際に活用し表現する力を身に付けたり、英語を使用して会話する経験を増やしたりしていく必要があります。

4 学習状況や生活の様子について

質問紙の結果から、次のような状況がうかがわれました。(○は全国平均を上回り、●は全国平均を下回る項目です)

小学校6年生

- 朝食を毎日食べている。 ○学校に行くのは楽しい。 ○友達関係に満足している。
- 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。
- 毎日、同じ時刻に就寝・起床している。 ●家で計画を立てて学習に取り組んでいる。
- 自分と違う意見について考えるのは楽しい。 ●読書が好き。

中学校3年生

- 住んでいる地域の行事に参加している。 ○新聞を読んでいる。
- 数学・英語の勉強が好き。
- 朝食を毎日食べている。 ●毎日、同じ時刻に就寝・起床している。 ●読書が好き。
- 自分と違う意見について考えるのは楽しい。 ●家で計画を立てて学習に取り組んでいる。

5 ICT機器活用について

- ・「学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」の質問に対して、小学校で「週1回以上」、中学校で「週3回以上」「週1回以上」と答える児童生徒の割合が全国平均よりもやや多く見られました。
- ・「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の質問に対しては、「役に立つ」「どちらか」と役につくと答えた小学生は全国平均とほぼ同じ割合で、中学生は全国平均よりやや少ない割合でした。

6 質問紙調査から分かる、これから各学校で力を入れたいこと

- ・達成感や自信をもち、自己有用感を高める取組
- ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善
- ・課題解決に向けて筋道を立てて考える、自分の考えを整理して表現する取組
- ・学習に対する興味・関心や授業の理解度を高め、主体性・協働性を高める取組

【犬山市における今後の取組】

- 読解力向上プログラムに基づいて図書館活用を促進し、すすんで読書に親しむ子どもの育成を図ります。
- 授業改善を進め、学ぶ楽しさ、分かる喜びを味わうことのできる子どもの育成を図ります。
- 学習において文章や問題を読み解く力、自分の考えを表現する力、相手の考えを読み取る力など、読解力の育成を図ります。
- 一人一台のタブレット端末を活用した授業の中で、個別最適で協働的な学習を進めます。また、ICT機器の効果的な活用方法について校内研修を行います。
- 自ら課題を発見し、自分の考えや仲間の考えをもとに、課題に対する最適解を作り出す学習を繰り返し行い、主体的に取り組む姿勢や仲間と協力する協働性を育みます。また、自分で計画を立てて学習に取り組める子どもの育成を図ります。

〈 担 当 〉犬山市教育委員会 学校教育課
〈 電 話 〉0568(44)0350
〈 電子メール〉070200@city.inuyama.lg.jp